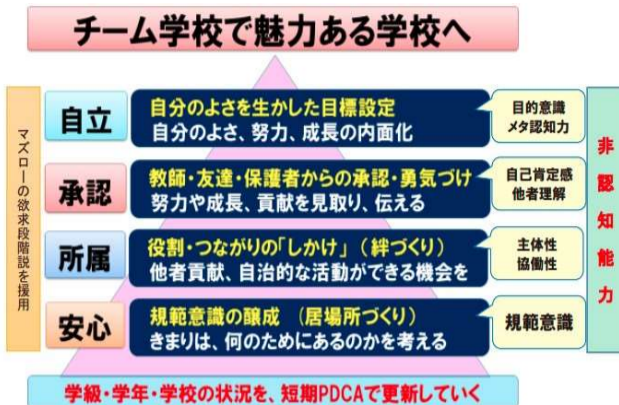




## 支持的風土をつくる学級・学校経営ピラミッドの活用

子どもたちにとって待ちに待った夏休みが始まりました。コロナ禍で制限された学校生活であったと思いますが、それを乗り越え、感染予防をしながらも夏休みを思い思いに過ごしていることと思います。学校で学んだことと実生活とのつながりを見いだしたり、学校だけでは学ぶことのできないことを体験したり追究したりするなど、子ども一人一人にとって学びの楽しさを味わうことができる夏休みとなることを願っています。

さて、昨年度よりスタートした「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」では、魅力ある学校づくりに向けた支持的風土づくりの4つのポイント(「安心」、「所属」、「承認」、「自立」)を踏まえた諸活動と連動させた取組を推進しています。



### 1, 支持的風土をつくる学級・学校経営ピラミッド

これまで学校教育では、様々な学級経営の実践が生まれてきました。「支持的風土をつくる学級・学校経営のピラミッド」は、マズローの欲求段階説を基に、学級経営の系統性を抽出し、筋道としてまとめたピラミッドです。およそすべての実践は、このピラミッドのどこかの段階に入ります。躰やルールの指導なら、ピラミッドの土台「安心(規範意識)」に入ります。人に貢献する気持ちや、まわりの人を大切にする感覚を育てる指導は「所属(主体性・協働性)」に入ります。

大切なのは、ピラミッドのどこに入るのかという「俯瞰の目」を持つことです。「今の学級はこの段階だから、この段階の実践をしよう」というように、適切な実践を選択するには、どうしても、学級経営の筋道を俯瞰で見ておく必要があります。

### 2, 学級経営の筋道

4月になると、学級を受けもちます。この学級を1年間で成長させていかななくてはなりません。どのような方向に、どのような筋道で、学級を成長させればよいのでしょうか。

そのためには、学級経営の「ゴール」と、その「ゴール」に到達するための「筋道」を知っておく必要があります。学級経営のゴールとは、ひと言で言えば、「自立」です。子どもが、教師に頼らず、自分たちで望ましい学校生活を過ごせるようになればよいのです。

ただし、最終ゴールは「自立」ですが、1年後にどんなゴールを目指すのかは、学級の実態によって変わります。

そこで、最終ゴールは「自立」とわかったうえで、1年後の「ゴール」と、そこに到達するための「筋道」を知る必要があります。

### 3, 学級経営の順序

過去の日本の学級経営は、概ね同じ筋道を辿っていました。学級経営には順序があります。その大まかな「指導の順序」を知らないといけません。例えば、生活習慣を確立することが大切だという教育書があるならば、それはピラミッドの底辺を意識したものです。もし、子どもに大きな夢をもたせなさいという教育書があれば、それはピラミッドの頂点を意識したものです。およそ全ての教育書は、このピラミッドのどこかの段階に入れることができます。

重要なのは、「ピラミッドの土台から順番に築かないと学級経営はうまくいかない」ということです。この順番を知らなければ、行き当たりばったりの指導になってしまいます。現場の一人一人の担任が今の学級の状態を正確に把握し、そして次の手立てに適切な方法を選ぶことが大切です。

### 4, 成長の判断

ピラミッドという筋道で見ると、学級の成長を判断できます。ピラミッドの概念を知ると、次の3つが分かります。

- ①「学級の現状はどの段階なのか」、②「どこに向かって学級を成長させるといいのか」、③「1年後にどの程度学級が成長したのか」。

### 5, 階層構造の意味

階層構造について、説明します。下の階層が達成されると、上の階層も達成されていきます。ただし、下の階層が、100%満たされていないと、上の階層にいけないかと言うと、そうではありません。「安心」が50%ほど達成されると、1つ上の「所属」も25%ほど達成されていきます。

つまり、それぞれの階層は、少しずつ、下から同時に達成されてくることを意味します。教師の指導も、このモデルに沿って行っていきます。

例えば、1学期は「安心(規範意識)」「所属(主体性・協働性)」に、力を入れていたのに対し、2学期になると、指導の力点は「承認(自己肯定感・他者理解)」や「自立(目的意識・メタ認知能力)」の達成を狙っていきます。

このように、下の階層から達成していきませんが、同時に、上の階層も少しずつ達成できるように指導していきます。

### 6, 目標の設定と子どもの成長

子どもを伸ばすには、教師の直接的な指導だけでは限界があります。学級経営では、子ども自ら努力するように導くことが必要です。

なぜなら、子どもは、教師が成長させるだけでなく、自ら成長していく存在だからです。子ども自ら成長していくように導くうえで、意識してほしいことは、子どもに「目標」をもたせ、「目標」を共有し、達成を支援することです。子どもが「目標」をもっているかどうかは、子どもの「成長」に大きく影響します。「目標」があれば、自然と努力が始まるからです。そして、努力の継続によって、子どもの力は大きく「成長」するのです。例えば、スポーツで「地区大会の3回戦までは勝ちたい」という選手と、「九州大会に出場して勝ち進みたい」と思っている選手では、練習への取組は違ってきます。

最後に、学級経営でまず取り組むべきことは、全ての児童生徒が学校に来ることが楽しいと感じ、積極的に登校したいと思えるような、日々の学校生活です。

そのためには、どの児童生徒も落ち着ける場所をつくること(居場所づくり)、全ての児童生徒が活躍できる場面をつくること(絆づくりのための場づくり)が鍵になります。

## 研修 8月 教育研究所事業予定

3日 (火) 標準学力 算数授業実践講座

3日 (火) 中堅教諭等資質向上研修(社会体験)

4日 (水) 中堅教諭等資質向上研修(社会体験)

16日 (月) 中堅教諭等資質向上研修⑧⑨

16日 (月) 初任者研修⑨

17日 (火) 教職3年目研修②

18日 (水) 教科等課題に係る研修会【講演会】



緊急事態宣言の延長に伴い、すべての研修をオンデマンドに変更しております。同時双方向(オンライン)の研修に向けては検証を重ねてからの実施となります。

さて、オンデマンド(eラーニング)での研修を受ける際には、研修を受ける時間や場所、服装等がある程度自分で決めることができます。隙間時間で試聴できる利点がある一方、対面研修のような効果が得られるかは研修者の心構え一つで変わると考えます。

動画を試聴する際には、時間や環境を整え、時には服装を正装に替えるなど、「研修に臨むぞ!」というスイッチを入れることで学びの質が変わると思います。また、複数人で受講した際には、是非アウトプットの機会を設け、学びを確認することもオススメです。